

I. 授業の概要

2022年4月から高校では「地理総合」が必修科目として導入された。教員教育でそのような対応しなければならない。「地理学概説」は教育学部1回生向けの専門教育科目であり、「地理総合」に合わせて授業内容を調整した。地理学は地表面の諸事象の地域的特色や分布の法則を研究する科学である。講義では身近な地域から世界の地域までを具体的な事例としながら基礎的な知識を修得させ、地域的特色や地域的差異を理解する地理学的見方を身につけることを目的としている。この科目は課程認定科目である。

授業の到達目標は以下の3つである。即ち、①地理学（地誌学も含む）の基本概念を理解する。②地図とくに地形図の基礎知識を習得し、正しく読図できる。③それぞれの地域の特性を理解し、地域における人文事象と自然環境や歴史・社会・経済環境などとの関係を説明できる。

関連するディプロマ・ポリシー(DP)は、教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。教育現場で生じている様々な現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。

授業の内容および計画は以下である。第01回イントロダクション:地理的見方・考え方、第02回地理学、地理教育と教員養成、第03回地理学と地形図・GIS、第04回地理学と主題図、第05回身近な地域の調査方法と教材化、第06回フィールドワークの実践、第07回主題図の作成と読解、第08回フィールドワークの成果発表、第09回地域区分と世界の諸地域、第10回モンスーン地域の地理環境と暮らし、第11回乾燥地域の地理環境と暮らし、第12回地形環境と生活文化、第13回地理学と生活圏の諸課題、第14回地理教育とSDGs、第15回まとめ・期末試験、である。

II. 授業評価の方法と結果

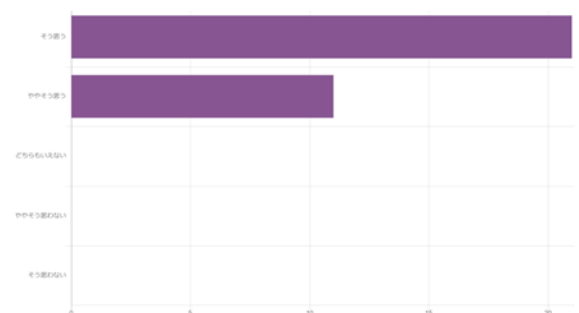
2023年1月27日(金)に授業評価に関するアンケート調査を無記名式で行なった。履修者33名のうちに31名から回答を得た。本年度の授業もフィールドワークを実施する予定であった。その主な結果は以下の通りである。

1. 地形図「松山北部」の読図について(複数選択可)

フィールドワークの事前学習として、松山北部とい地形図について読図を実施した。評価の高い順に「読図を通じて、松山の理解を深めた」、「身近な地域を教材化する手段の1つを獲得した」、「作図を通じて、新しい発見があった」、「地図から現地の様子を分かった」であった。



2. GeoActivity(作図・読図など)について、授業内容の理解に有用であったか(複数選択可)



受講者の殆どは内容の理解を深めるためのGeoActivity(読図・作図活動)が重要だ感じているので、来年度も継続して実施する。

3. フィールドワークで印象に残ったもの(複数選択可)

フィールドワークは受講生の生活圏を対象にコースを設定した。文京遺跡、城北練兵場跡、陸軍省所轄地石碑、北予中学校跡、都市河川(宮前川、大川)、松田池と松大グラウンド、御幸キャンパス(傾斜地の利用)、寺町(寺

院・墓地)、来迎寺(足立重信、大原観山、青地林宗墓所)、景観から住宅地化・高層化の動きを見る、千秋寺(子規句碑)、御幸寺、一草庵(自由律俳人種田山頭火の終焉の場所)、ロシア兵墓地、地形と等高線、斜面の地形とその土地使用などを観察した。受講生の反応から、身近な地域でフィールドワークを実施したことの意義が分かった。



III. 記述内容について

受講者の記述内容を分類して、主なものを下に列挙しておく。

ロシア兵墓地がなぜあるのか松山に来た時から不思議だったが、理由を学べたということ。松山城の北部には寺がたくさんあるということ。これら2つは松山にしかないものなのでとても勉強になった。

身近なことなので教科書学習よりも興味がわいた。

勉強嫌いの子でも参加しやすい学習形態だと思った。

身近な場所にも面白い地形やその活用法があるという発見、地元史も同時に学ぶことができる。

地域の特性を生かした教材を用意するという点。

歴史的背景に触れていくことで別視点からのアプローチができるということ、今と昔でどのような変化が起きたのかを学べた。現地に行って、実際に見なければわからないようなことを学べた。斜面の利用や現代化など。自分が住んでいる町にもかかわらず知らないことが多くあったこと。

地図で見るよりわかることがある。地域の歴史について学ぶことができる。

フィールドワークで地域を歩くことにより地域の地理学から見た歴史的な背景や考え方がわかること。川や斜面を中心に考えると人々の生活や家の建て方が地理学的にわかるということ。

地図を読み解くだけではなく、実際に行っ

てみてわかったことが多くあり、現地に行ってみることが重要であると分かった点。

松山北部の地形を大まかに理解することができ、教員になった時に子供に対しての避難指示などがより明確にできる点。北部の歴史や文化などを理解し、それを伝えることができる点。

生活の中では何気なく存在する町並みが、なぜそのような立地になったのかを想像したり、考えたりすることで理解が深まった。

高校生の時にフィールドワークを行ったことがあったが、目的がいまいちわからなかったが、今回教員目線でフィールドワークを行うことで、実際に目で見て考えることと教科書で見ることの違いが明確に分かった。

フィールドワークを通じて資料だけから学ぶ姿勢を改めて、実際に自分の足で行動して考察することがより深い学びに繋がると感じたことと地図や写真だけでは分からないより詳細な観察をフィールドワークでできること。

地域素材と関連させた授業は子供たちにとって身近なことと頭に入りやすいのではないかと考えた。

日常の中に溶け込んでいる歴史的な遺跡に目を向けてみると新たな発見があるという。

実際に現地に行って歩いてみるということがどれほど大事であるかを学んだ。地図では読めないことや、行って初めて分かることなど発見があり、自分が教師になった時に子ども達も自分たちの地域に親しみをもちてもらえると思う。

土地に赴くことで子供たちに感動を与えることができ、土地教材はとても良い学びになること。

IV. 次年度の改善点

授業は概ねシラバスの通り目的を達した。受講生からフィールドワークの実施について次の指摘があった。

フィールドワークは一回だけではなく、何回か行ってみたいかった。交通量が少ない場所の方が良い。改善点としては、夕方になると暗くなりすぎるという点。

もう少し長い時間があれば、もっと詳しく深くフィールドワークが出来そうと思った。人数が多かったので、一列になった際に後ろの方の人は先生の説明が聞き取りにくかった。